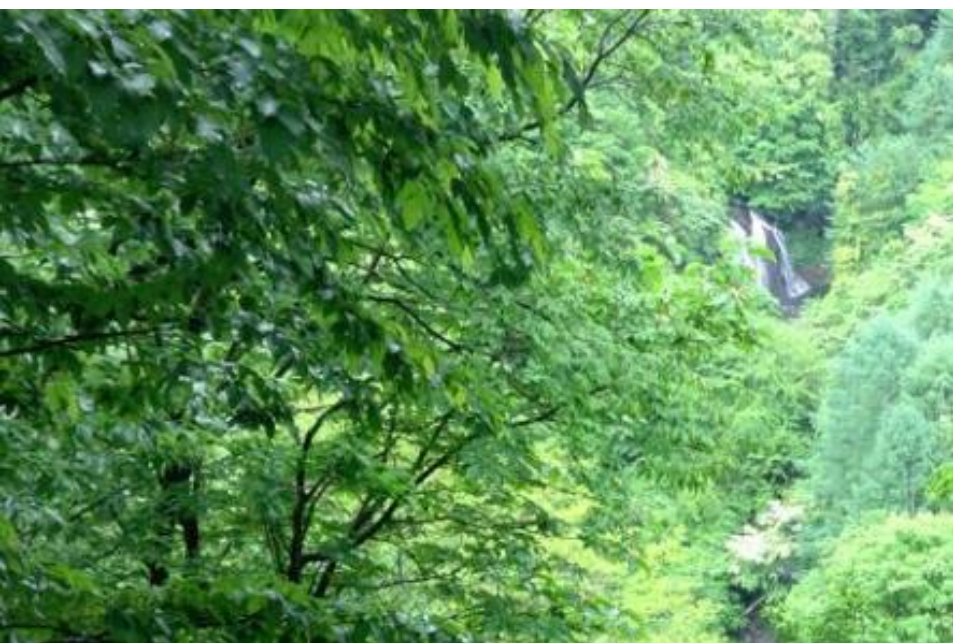


国際青年環境NGO

A SEED JAPAN

持続可能で公正な社会を目指して

2014 年度年次報告書



目次

代表・事務局長より	…p.2
アースデイ東京／組織基盤強化	…p.3
各プロジェクト報告	…p.4-13
組織概要	…p.14
2014 年度財務状況	…p.15



代表・事務局長より

みなさまの多大なご支援により、91年設立のASJは今年度で24年目を迎えることができました。この長い歴史の中で、ASJは日本の青年が集い、成長しながら活動を展開する「場」として機能し、公正な社会の実現に向け、1つ1つ多様な実績を積み重ねてきました。その中で、最近では「ごみゼロナビゲーション」との発展的な事業分離、NPO法人化等の組織内の改革を行うとともに、世界7ヶ国をまたがるグローバルなキャンペーンである「フェア・ファイナンス・ガイド」の運営団体を担う等、新しいインパクトを生み出すための活動も展開しています。

さて、この20年あまりで日本社会も変わり、NPOやNGOに対する認知度も大きく高まりました。最近では社会的企業や社会的インパクト投資等の「社会貢献型」の事業が1つのムーブメントとなっています。しかし一方で、環境・社会問題の根本原因を考え、それを取り除くための活動、具体的には大手企業や政府への提言（＝アドボカシー）活動等が、やや軽視され、日の目が当たりにくくなっている風潮も感じています。

ASJとしては、そうした新しいムーブメントを起こしている各セクターのみなさまと連携しながらも、あくまで「長期的に環境・社会問題の根本解決を目指す」というスタンスを堅持しながら、効果的な活動を展開していきたいと考えています。それは、短期的に「〇〇人を救える」というようなインパクトの可視化がしにくい活動かもしれません。寄付や人材が集まりにくい活動かもしれません。ただ、誰かがやらなくてはならない活動がそこにある。その信念を団体運営の基礎として邁進していきたいと思えます。

今後も、継続的かつ暖かいご支援をいただければ幸いです。



2015年度共同代表
土谷和之



2015年度共同代表
永井 亮

私のような20代前半の若者が日本の環境問題、そしてその根本にある大きな社会問題の解決の一躍を担うことができるのか、これは2012年に私がA SEED JAPANのメンバーになって以来、常に心に抱いていました。A SEED JAPANはこれまで24年の歴史の中で、国際会議での提言や企業との対話を若者が主導で行ってきました。こうした活動が大きな成果として結びついているのは、現場での発信力や政府・企業との対話力といったアウトプットのみならず、社会問題に関する調査をし、将来の情勢を見据えたA SEED JAPANならではの見解をもっていたからであると私は考えています。

しかし現在、グローバル化によってますます世界は“経済成長”に向かっています。一方、エネルギーや食を中心とした日本の環境問題はますます複雑化・深刻化しています。そのような中でも、私たちはこのような課題に対して構造からとらえ直し、地域目線で、確かな情報を多くの人々に提供する姿勢を若者中心で展開していきます。

そのためには、24年間A SEED JAPANを築いてきた多くの方々、そして今もA SEED JAPANを支援していただいている方々の力が不可欠です。様々な形でスキルやノウハウ、経験を共有しあい、多様化する課題に対してやりがいをもって挑んでいく人々のコミュニティを形成していくことが、私にとって大きなそして楽しみな目標です。

今後も若者が中心となって活躍していくA SEED JAPANの活動にご期待ください。

「A SEED JAPANは、“なぜ？”を何度も繰り返すんです」――私が当団体に入会するきっかけとなった団体説明会で、当時の事務局長が話したフレーズを、今も大切にしています。25周年目を迎えたA SEED JAPANを卒業した歴代のメンバーは今、世界中で地域・職種を問わず、様々な社会問題に向き合い、活躍しています。

社会の一定の価値観に染まりきっていない、あらゆる価値観から自由な“青年”のエネルギーはものすごい。そして、多くの失敗や苦勞の末に何かを成し遂げた達成感を胸にASJを去って行ったメンバーは、そのエネルギーを持って次のステップへと進んでいく。私が事務局長としてできることは数少ないかもしれませんが、ここに集うメンバーと苦勞・成功を共にし、人生の転機を作る一助になればという思いです。

一方NGOとして、問題への当事者性を持ち、本当に困っている人たちと一体感を持ったアドボカシー活動を行っていきたくと考えます。そして企業や政府の意志決定者たちと持続可能な社会のビジョンを共有し、ロジックを組み立て、ともに社会を変えていく…そんな活動を作り上げていけたらと、考えています。

政府も企業もNGOも、「これで絶対正しい」と思ったら終わり。現場へのまなざしと自由な価値観を持ち、常に問い続けることからしか、問題の本質は見えてこない。

今後とも、社会問題の解決とそれを目指す青年の育成にご協力いただけますと幸いです。



2015年度事務局長
西島香織

アースデイ東京 2014

10万人が参加する地球フェスティバル

アースデイ東京 2014 事務局を担いました

アースデイ(4/22)は 1970 年に始まり、現在は世界 175 カ国、約 5 億人が参加する社会運動です。

NGO/NPO を中心とした複数団体による単年度の実行委員会形式で運営されており、A SEED JAPAN はアースデイ東京 2014 の事務局を担いました。当日は 400 を超える団体と 200 名以上のボランティアとともに、様々なトークステージやブース出展を運営しました。



4/18(土),19(日)

アースデイ東京 2014 参加企画

「ワカモノ×ミライ」を開催しました

アースデイ東京 2014 の企画参加で、若者団体の出展コーディネートをしました。当日は 5 団体、総勢 50 名の若者と共に出展。その他、メインステージ、オフィシャルトークステージへ出演しました。出展団体：A SEED JAPAN、エコ・リーグ、文京学院大学 環境教育研究センター、United Youth、Food For All

組織基盤強化事業

いくら立派な荷積み(=事業)があっても、それを支え運ぶための船(=組織)がもろいと船ごと沈んでしまいます。当団体でもたとえば会議の議事録やイベントの会計、人材育成や資金調達など、活動を行う上で必要な組織の基盤をつくる必要があります。2014 年 1 月からパナソニック NPO サポートファンドの助成を受け、3 年かけて組織基盤強化を行うことを決め、取り組んでいます。



1年目【組織課題分析】

- ・理事会(経営主体)の機能の明確化
- ・中期計画の策定の必要性-ミッション・ビジョンの再確認

2年目【目標づくり・戦略づくり】

- ・中期計画づくり
- ・定款の見直し
- ・事務局体制の強化
- ・財政目標の設定
- ・支援者のコミュニティづくり
- ・会員制度更新検討
- ・パンフレット刷新

3年目【戦略の実施】

- ・社会的成果の可視化
- ・それぞれのニーズに合った会員制度
- ・広報戦略強化
- ・新事業の立ち上げ検討

本プロジェクトは、PanasonicNPO サポートファンド助成を受けて実施しております。また、外部アドバイザーとして1年目は日本NPOセンターの田尻佳史氏、認定NPO法人まちぼつとの奥田裕之氏に、2年目はNPO法人カタリバ事務局局長・ソーシャルベンチャーパートナーズ東京共同代表の岡本拓也氏にコンサルティングをしていただきながら進めております。団体の存在意義を位置から見直す1年半を過ごしました。様々なご支援・ご協力をいただきましたことに深く感謝いたします。